

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	温熱感小委員会	主 査 名：松原 齋樹 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：銚井 修一
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのアカスタ作成の活動成果を鑑み、温熱環境研究の展望を模索する ・第 38 回熱シンポジウム(2008 年 7 月)の開催 ・室内温熱環境測定規準・同解説の刊行 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(但し応募無し) 磯田憲生(奈良女子大), 永村一雄(大阪市立大), 都築和代(産総研), 斎藤輝幸(名大), 土川忠浩(兵庫県立大), 田辺新一(早稲田大学), 大野秀夫(大野研究室), 梶井修通(近畿大), 久野覚(名大), 山岸明浩(信州大), 深井一夫(横浜国大), 横山真太郎(北大), 松原齋樹(京都府立大)	
設置 WG (WG 名：目的)	1. 現状研究発信WG (主査:都築和代/産総研) 近年の我が国における温熱環境に関する研究の動向調査を行う。 2. 温熱環境学術規準WG (主査:土川忠浩/兵庫県立大) 温熱感の学術基準について策定について検討を行う。 3. 28 オフィス環境WG(主査:田辺新一/早稲田大学) 28 設定に関する基礎資料を整理し、居住者への影響を取りまとめる。	
2008 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 38 回熱シンポジウム 『暑熱環境と人間・社会』 - 温熱感研究の社会的貢献 - 参加者数 201 名 (資料名) 第 38 回熱シンポジウム資料集 2. (名称) 温熱環境のユニバーサルデザイン(2009/2/23 開催予定) (資料名)「温熱環境のユニバーサルデザイン」シンポジウム
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. アカスタ作成の活動成果として室内温熱環境測定規準・同解説を出版した。 2. 今後の温熱環境に関する研究の展望を模索として第 38 回熱シンポを開催し、近年希に見る盛会(201 名参加)であった。 3. 温熱環境のユニバーサルデザインも開催予定である。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員が、それぞれ多忙のため、委員会開催が十分にできないこと。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2008 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、これまでの数年間にわたるアカスタ作成の活動成果をベースとして、これからの温熱環境研究の展望を模索することを主要な目的として設置された。そのために、現状研究発信 WG (主査：都築和代)、温熱環境学術規準 WG (主査：土川忠浩)、28 オフィス環境 WG (主査：田辺新一) の 3 つの WG を設置して、多面的に活動してきた。アカスタに関しては、2008 年 1 月に日本建築学会環境基準 AIJES-H002-2008 室内温熱環境測定規準・同解説を刊行し、3 月に講習会を開催することができた。28 オフィス温熱環境 WG に関しては数回の研究会を開催し、28 オフィスの温熱環境に関する諸問題について探求した。</p> <p>また、今年度は、熱運営委員会の最大の催しである熱シンポジウムを担当することとなり、昨年度から、小委員会活動の大部分をこのシンポジウムの開催にあてた。熱シンポジウムは例年秋から冬にかけて開催するが、今回は、社会に向けての発信を意識して、第 38 回熱シンポジウム『『暑熱環境と人間・社会』 - 温熱感研究の社会的貢献 -』と称して、7 月 4 日～5 日 (建築会館) の開催としたため、準備期間が例年よりも短く、かなり困難な中での開催となった。しかし、以上の困難にもかかわらず参加者数は、201 名を数え、近年の熱シンポジウムとしては、希にみる多数の参加を得ることができた。また内容も温暖化、都市のヒートアイランドなどに関連しており、セッション「28 オフィスの温熱環境」も含めて時宜を得たものとして好評であった。</p> <p>また、年度末には、温熱環境のユニバーサルデザインを開催予定であり、現在準備を進めているところである。</p> <p>以上のように年間を通して講習会やシンポジウムを企画・開催して、積極的に学会内外に情報発信をしているので、これらを総合的に判断して A 評価をしたい。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。